

2003年を迎えて

「新時代のライフライン」に貢献する 「i.e.社会システム」



日立製作所 取締役社長

山岡悦彦

「情報システムサービス」と「社会インフラシステム」の連携、融合に注力

昨年2002年は、日本の科学技術にとって記念すべき年になりました。小柴昌俊氏のノーベル物理学賞、田中耕一氏のノーベル化学賞のダブル受賞はまことに喜ばしく、その業績に敬意を表したいと思います。

日立においても、外村彰フェローが電子線ホログラフィーの研究と基礎物理学への貢献により、文化功労者として顕彰されました。

このような成果を前にしてあらためて思うのは、研究者個人の豊かな想像力と優れた創造力の重要性です。最近チームやプロジェクトベースでの研究が増えており、個人が自由に能力を発揮することが難しくなっているのも事実です。しかし、研究者一人一人が「夢」をもち、個人個人が輝いてこそ成果に結びつくということを、いっそう強く認識いたしました。

21世紀に入り、日立は、コーポレートステートメント「Inspire the Next(次なる時代に息吹きを与え続ける)」のもと、お客様から世界で一番信頼していただける「ベスト・ソリューション・パートナー」を目指して、努力してまいりました。特に昨年から、「高効率経営の実現に向けた、さらなる事業構造改革」を掲げ、豊富な経験・ノウハウを有する「社会インフラシステム」と、最先端の技術・知識を有する「情報システムサービス」のリソースを、従来以上に連携、融合させ、「新時代のライフライン」を支える「i.e.社会システム」の実現に向けて、注力事業の選択や新事業の創出などを強力に推進しています。

これは、ITと知で装備された「社会インフラシステム」と「情報システムサービス」、それらを支える「基幹ハードウェア・ソフトウェア・高機能材料」の開発を進

め、この分野でトータルソリューションを提供できるグローバルサプライヤーを目指すという、「i.e.HITACHIプラン」で掲げた戦略を継承、発展させるものであります。

中でも、新たな需要を呼び起こす新事業の創出のために、「Inspire the Next事業」として、「快適情報ソリューション」、「クリーン環境ソリューション」、「安心健康ソリューション」、「知識経営ソリューション」の四つのカテゴリーに関する具体的な事業戦略の立案を進めています。これらによって、ITやバイオテクノロジー、ナノテクノロジーなどの最先端技術をベースに潜在的な市場のニーズを開拓し、新事業の創出を通じて、日立の強さをいっそう発揮していきたいと思っています。

このような取り組みを担う重要なファクターが、研究開発であり、それを推進する「人＝研究者」です。日立では、時代に対応した「人」の育成と、優れた人材が存分に才能を発揮できる「オープン」で「チャレンジング」、そして多様な個性が輝く「ダイバーシティ」な環境づくりに、特に力を入れていくことにしています。

「2003年度 日立技術の展望」では、まさに、そうした新しい「個性」が次の時代に向けて発信する提案をご紹介します。

現下の経営環境は厳しい局面にありますが、日立はさまざまな経営課題を克服する一方で、皆様とのパートナーシップをいっそう深めて、将来の「夢」の実現に向けて邁進してまいります。

—社会が変わるとき、変えるのは日立でありたい。
それが、日立の変わらぬ願いです。